

主要障がい者団体(知的障がい)との意見交換会で寄せられた意見

2011/8/31 実施

しりょう
資料2

意見分類	意見内容
分野1:理解促進	障がいについての理解促進のためには、地域で障がいのある子どもと一緒に勉強することが必要。
分野1:理解促進	障がいについての理解促進を、学校の入学時やPTA総会、校長会で啓発・啓蒙するなど、共生していくための取組が必要。
分野1:理解促進	医療機関にも、障がいについて理解を深めてもらうような取組が必要。
分野2:生活支援	一般就労ばかりではなく、地域社会の中で社会的な活動ができるよう、サービス基盤の整備が必要。
分野2:生活支援	移動支援事業を通学・通所にも利用できるようにしてほしい。
分野2:生活支援	産まれてすぐ、必要な支援を求めていける場の充実。
分野2:生活支援	グループホーム等を建てるために、市有地を積極的に提供してほしい。
分野2:生活支援	子どもの支援と親の支援がワンセットで、ライフステージに応じた支援があればよい。
分野2:生活支援	市営住宅を建て替えたり新築したりするときには、障がい者が暮らせる場所を整備するような仕組みにしてほしい。
分野2:生活支援	重度の障がいのある方や高齢の方でも、住みなれた地域で自立した生活を営むことができる住まいとして、ケアホーム、グループホームのさらなる充実が不可欠。
分野2:生活支援	相談支援について、長い期間、継続的に成長を見守りながら支援を受けられる体制、もっと速やかに、かつ、内容の充実した相談を受けられるようなシステムを望む。
分野2:生活支援	発達障がいと行動障がいを併せ持つ児童に対する早期療育体制、適切な支援体制の充実を望む。

ぶんや 分野2：生活 しえん 支援	ほうたつしょう 発達障がいの子どもの支援は、生まれたときからの子育て支援と子どもの支援を両方やっていく必要がある。
ぶんや 分野2：生活 しえん 支援	ふくし 福祉に従事する方の処遇改善。人材の確保。
ぶんや 分野2：生活 しえん 支援	ほごしゃ 保護者の病気等の緊急時にきちんと対応できるサービス提供 きばん 基盤の整備が必要。
ぶんや 分野2：生活 しえん 支援	みじか 身近に相談できる人、生活を見守ってくれる人が常にいることが大きなセーフティネットとなる。
ぶんや 分野2：生活 しえん 支援	りょういくてちょう 療育手帳の判定において、IQ検査や保護者からの聞き取りだけでははかれない障がいも含め、その人全体を判定してほしい。
ぶんや 分野3：保健・ いりょう 医療	いりょうひじよせいせい 医療費助成制度において、療育手帳Bの人にも適用を拡大してほしい。療育手帳を所持している40歳以上の知的障がい者全員に適用を拡大してほしい。
ぶんや 分野3：保健・ いりょう 医療	せいしんか すべての精神科医療機関が知的障がいや自閉症のことをよく理解してほしい。そのための研修の充実を望む。
ぶんや 分野3：保健・ いりょう 医療	しりつさつ 市立札幌病院静療院成人部門が本院に移転した後、成人の精神科医療の体制についても検討してほしい。
ぶんや 分野5：教育・ いくせい 育成	きょういく 教育の分野においても障がい児施策に力を入れてほしい。
ぶんや 分野5：教育・ いくせい 育成	こうとうぶきょう 高等部教育を希望する子どもたち全員が、特別支援学校高等部または高等学校の特別支援学級の高等部教育課程に進学できる体制の実現を望む。
ぶんや 分野5：教育・ いくせい 育成	しょう 障がいがあっても、住みなれた地域の学校に通えるようにしてほしい。
ぶんや 分野5：教育・ いくせい 育成	ほうめい 豊明養護学校のノウハウを活かした分校、分教室の設置、札幌市各区に高等部教育を受けられる場の整備を求めます。
ぶんや 分野6：雇用・ しゅうろう 就労	しゅうぎょう 就業・生活支援事業所に相談するまで、待機期間が長い。

ぶんや こよう 分野6：雇用・ 就労	しゅうぎょう せいかつしえんじぎょうしょ ぶ 就業・生活支援事業所を増やしてほしい。障がい者雇用の拡 だい ていちゃく ほか 大と定着を図ってほしい。
ぶんや じょうほう 分野7：情報・ コミュニケー ション	ふくし どう はいふ じょうほうていきょう じゅうじつ のぞ 福祉ガイド等の配布による情報提供の充実を望む。
ぶんや 分野8：ス ポーツ・文化	しょう ひと ちいき 障がいのある人たちも、地域のカルチャーセンター等で芸術や たの ば ぶ スポーツを楽しめる場が増えればよい。
ぜんばん 全般	し さく てん かい たてわ よこ 施策展開にあたっては、縦割りではなく、横のつながりが重 よう ちいき れんけいたいせい ひつよう 要。地域との連携体制も必要。